

認定こども園高須第2幼稚園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1
理念・基本方針		
施設の特徴的な取り組み		
第三者評価結果の総評		P2
第三者評価結果		P3～14
第三者評価確認書類リスト	非公表	P15～P16
公開保育への取り組みの様子（写真）	非公表	P17～P19
第三者評価結果（詳細）	非公表	P20～P37

(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

施設名称	認定こども園 高須第2幼稚園 高須南ドリームキッズ
運営法人名称	学校法人森本学園
施設種別	幼稚園型認定こども園
代表者氏名	森本嘉一
施設所在地	高知県高知市屋頭 19 番地
電話番号	TEL088-883-2329
FAX 番号	FAX088-883-2459
ホームページアドレス	http://www.takasu-kids.jp/takani.html
メールアドレス	takasu2<takasu2@shirt.ocn.ne.jp
事業開始年月日	昭和 56 年 4 月 1 日
教職員・従業員数	28 名
施設・設備の概要	敷地全体 2,599.52 m ² 建築面積 1,225 m ² 延床面積 1,374.52 m ²

【理念・基本方針】

○教育目標～支えあう子どもたち～

☆思いやりのある子ども ☆たくましい子ども ☆自分で考え自分で行動する子ども

○保育目標

☆基本的生活習慣を身につける ☆自分の思いを表現する ☆意欲的にあそぶ

【施設の特徴的な取り組み】

文部科学省の定める「幼稚園教育要領」、厚生労働省の定める「保育所保育指針」における領域が示すねらいに基づき、幼児教育においては、遊びを中心とする幼児期にふさわしい生活を通じて、一人ひとりの発達に応じた保育に努めています。保育においては、子どもの欲求を十分に満たして信頼関係を築きながら、自発性の芽生えを大切に育てていきます。

【評価機関情報】 事務局記載

評価機関名	(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	平成 29 年 10 月 31 日
評価者	H30A00736、H27B00427
ECEQ コーディネーター・支援者	EH25370045、EH25380046、 EH25390047、EH26360103、 EH26390108、EH26390109、EH27390168

【総評】

●総合評価

評価〔 A 〕

高須第2幼稚園は創立以来の教育理念である和を大切に、恵まれた自然環境や職員間の良好な関係により、子どもの発達に応じた優れた保育を実践している。

今後は教育要領等の改訂を踏まえ、保育の全体的な計画の見直し、さらなる教職員間の連携・情報共有を図り、地域になくてはならない幼児教育の拠点として乳幼児期の育ちを支えてもらいたい。

●特に評価が高い点、園の良さ等

自然に恵まれた環境のもと、一人ひとりの子ども達に寄り添い、「心情」「意欲」「態度」を育む幼児教育が実践されている。

創立以来、「和」を大切にする理念のもと子どもを中心として職員同士が良好な関係を築き、子どもの育ちと保護者を支える園の雰囲気につながっている。保育では、保育者が子どもに向き合い、子どもの発達に応じた保育が実践されている。

●課題、改善を求められる点

職員同士は良好な関係であるが、認定こども園への移行により職員数が増え保育者間での連携、情報共有が難しくなっている。今後は、様々な手法を駆使して情報共有を図る工夫が必要である。

又、園の理念を全職員が理解し、全体的な計画をはじめ、長期、短期の計画に具体的に反映できるように見直しが必要である。改訂された幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領等の実施も控えているので、3つの資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿等も踏まえての見直しを期待する。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

公開保育を通して保育を確認していただいたことから、子ども・職員・園内環境をチェックすることができた。

経営による書類でのヒアリングがあり、事前に書類の準備をしていたことから、円滑な説明ができた。園の長所も評価していただいたが、改善する面を確認することができたことが大きな収穫であった。今後はこの評価を活かし、教職員一同邁進しなければいけないと感じた。

第三者評価結果

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

- 良さ
 - ・自然に囲まれた豊かな環境
 - ・和を大切にしている理念
 - ・職員同士の良好な関係が子どもを通して保護者に伝わり、それが園全体の雰囲気につながっている風土
- 課題
 - ・職員同士の連携が弱い。特に保育所部分と幼児教育部分の連携

2. ①公開保育実施時の課題等

- 子ども同士、他クラスの様子から刺激を受け合えるような工夫が必要
- 折角ある豊かな園の自然を取り込むような環境の工夫が必要

②公開保育後のカンファレンスにおける外部から見た良さや課題

- この時期の発達をよく考えた保育が実践されている
- 遊びの材料が過不足なく準備されている
- 保育者が、子どもとよく向き合っている

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

- 職員間のよい雰囲気を、情報共有のしやすさに生かせる工夫が必要。長期的には、保育室の配置を同じ学年同士並べ、隣のクラス同士が刺激し合いながら、生活できる形へと変更する。又、職員室近くにホワイトボードをおき、本日の各クラスの計画が、どの保育者も一目でわかり、共有できるような工夫を加えるところから始める。他クラスの動きがわかれば、どのタイミングで関わり合えるか？見通しを持って保育できる。
- 情報共有する時間の確保をする
なかなか時間がとれないが、短い時間を有効に利用して、各クラスの育ちや状況等を理解し合うには、教育課程を軸にして話し合う必要がある。その教育課程を使いやすいものへと変化させていく必要もある。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

<A 教育・保育>

① 子供の人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子供の家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	済・未
2	子供や保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	済・未
3	身体、性、年齢、発達の差等、生来的な差によって子供に不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	済・未
5	子供の成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、先生と子供に、共に大切に扱われている。	済・未
7	全ての子供が「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子供集団（学級）のなかにある。	済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子供たちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子どもを中心において保育や環境を考えていくという基本的な理念があり、人権的な部分についても、安全安心な環境や配慮の中で、経験によって、子ども同士が気付き合えるよう促していくことが、風土としてあった。</p>		

②保育者の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができています。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	教職員一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子供と関わることを喜び、子供の遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	教職員一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>理事長、園長の管理下で、向上心を持って様々な研修へ参加できていた。研修したことは、職員間で共有できるよう、計画的に実行されていた。</p>		

③ 子供理解・指導の計画等・環境・実践・記録振り返り

1) 子供理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子供の内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を教職員全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子供の姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子供理解に努めている。	済・未
3	子供の記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子供理解の共有を教職員間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子供の成長とどう関連しているのか？記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子供の育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子供理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子供一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子供の家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子供理解を図っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子ども理解に努め、よりよい保育実践を進めていくための記録が十分になされていた。その記録を共通理解に利用する努力をしている。一方で、園内の振り返りの時間をどのように作りだすか？という点に、苦勞をしていた。</p>		

2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子供の発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子供の発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子供の状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>教育課程はもちろん週日案や必要に応じた個別指導計画などが、良好に作成されていた。</p> <p>また、学年の育ちに応じて作成の仕方が工夫されており、作成した計画が利用しやすいよう改善を繰り返している様子が伺えた。</p>		

3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子供たちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子供の自主性・自発性を尊重すると共に、子供同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子供の成長に合わせた遊具や絵本が、子供の手の届く場所に適切な量で用意され、子供が自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子供が安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<リズム・造形等の表現活動などについて>リズム・造形等の多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子供たちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子供の身体にあった大きさを整えられ修繕されている。	済・未

(コメント)

子どもの興味や関心に応じて過不足ない材料が準備されていた。細長い園舎の形状や、ところどころにあるスペースを、各学年が計画的に利用し、園の環境を有効に利用している様子が確認できた。また、砂場のネコ防護ネットをはじめ、各場所が衛生を保てるような工夫もされていた。

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	<p>乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。</p> <p>(1)子供が保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。</p> <p>(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。</p> <p>(3)子供が友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。</p> <p>(4)子供の発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。</p> <p>(5)在園時間の異なる子供が落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</p>	<p>済・未</p>
2	<p>子供の生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。</p> <p>(1)子供が主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。</p> <p>(2)子供が自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。</p> <p>(3)子供の主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。</p> <p>(4)子供が周囲の自然に親しみをもち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(5)子供の発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p>	<p>済・未</p>
3	<p>遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子供が主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(2)子供が発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p>	<p>済・未</p>
4	<p>子供一人一人の特性や発達の過程に応じた指導をしている。</p> <p>(1)子供一人一人の発達の過程や生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子供が主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子供一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子供（障害のある子供を含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子供との生活を通して共に成長できるように援助している。</p>	<p>済・未</p>

5	<p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子供が季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子供が行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子供が地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p>	<p>済・未</p>
<p>(コメント)</p> <p>基本的に子どもを主体とした保育が実践されている園であり、行事をはじめ、保育活動全般に遊びを通じた、総合的な指導を心掛けながら実践している様子が見受けられた。</p>		

5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	<p>個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子供の状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。</p>	<p>済・未</p>
2	<p>記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。</p>	<p>済・未</p>
3	<p>適宜、保育者間のカンファレンスが行われ、実践の振り返りと適切な評価の機会がある。</p>	<p>済・未</p>
4	<p>情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。</p>	<p>済・未</p>
5	<p>園内で共有された子供の育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。</p>	<p>済・未</p>
<p>(コメント)</p> <p>十分な記録は確認できた。情報共有についてカンファレンス等を実施する時間の確保やその時間の使い方を、いかに工夫していくか？ということが、今回の STEP を通して気付くことができた課題であり、今後は、今まで以上にその強化をしていく計画がされている。</p>		

⑤家庭・地域連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子供の成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子供の生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子供が豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>高知市の施策を通して、校区の保幼小同士で、しっかりとした接続連携が図られていた。</p> <p>自己評価などについてもしっかりとされており、保護者や地域と関わっていることがうかがわれた。</p>		

公開保育コーディネーターからの報告

創立当初から『和をもって』という点を大切にしてきた園であり、職員同士の関係性が良好で、よい雰囲気の中で保育活動ができていた。それが子どもを通して保護者に伝わることで、ひとつの安心が出来上がっているところが、この園の風土であった。ところが、認定こども園に移行し職員数が増えたことで、連携、共有が進め辛くなっている状況があった。『いかに職員同士が連携し、うまく情報共有していくか?』という点が、STEP全般を通して、浮き上がってきた課題であった。

外部からは、同年齢のクラスが並んでいない保育室の配置について質問が多く出てきた。この配置は、異年齢の関わりを促し、縦の関係性を深める環境として、伝統的にこの配置で実践してきた背景があった。しかし参加者からは、異年齢同士の行き来があまり見られていないうえ、同年齢同士も、お互いの情報を得て、刺激し合いながら遊びを豊かにしていくという点に乏しい現状があるのではないかと意見が出された。公開保育後ふりかえる中で、職員の中からも、この配置では連携しづらく、クラス内だけで遊びに偏ってしまいやすい。また、職員同士も情報交換や共有が進めにくいという問題を感じていたことが明らかになった。クラスの場所配置の改善は、ハード面の見直しとして、次年度に向けて、更によく考えていくこととなった。一方、すぐに実施できることとしては、日々各クラスがお互いの動きを把握しやすいように、職員室の目立つところへ、ホワイトボードを設置し、簡潔に今日のスケジュールを書いておくことで、お互いのクラスの動きを把握し、他クラスの関わり合いが持てるタイミングを意図的に作っていくのはどうか?といったことなど、小さい工夫を加え続けていくことで、まずはある程度カバーしていこうということになった。

短い時間を有効に使ってカンファレンスを進めるには、着目する点を絞る必要があるという気付きがあった。ただ、どのように絞っていくか?すぐには、うまくいかないと思うので、まずは、保育活動の軸となる教育課程を見直す必要があると考えた。抽象的でイメージし辛かった難しい文言を砕き、目の前の子どもの姿にあてはめる作業をしてはどうか?ということになっていった。その作業を進めることで、各時期に着目すべき点や絞って考える点が明確になってくることを、期待するものである。

今回は、STEPの初めから出てきた強さと課題が、外部からいただいた意見と、一致しており、進めていく中で、中身が明確になったり具体的に考えてみたりするチャンスとなったようである。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< B 運営 >

① 運営体制

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未	
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未	
3	会計事務を適切に行っている。	済・未	
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未	
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未	
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未	
7	学校評価を実施している。	済・未	
8	適正な法人運営を行っている。	済・未	
(コメント) 適正な法人運営のもと良好な教育環境が提供されている。			

②安全管理

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未	
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未	
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未	
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未	
(コメント) 事故等を想定したマニュアルを策定する等、園児の安全に努めている。			

③子育ての支援

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	学び発達の連続性を確保するために、小学校と連携をはかり、地域の関係機関や団体と交流し連携をはかっている。	済・未	
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取り組みを行っている。	済・未	
(コメント) 地域の関係機関と連携し、家庭教育の支援に努めている。			